

光山 俊行 氏 学位審査結果の要旨

主査：権 雅憲

副査：木梨 達雄、野村 昌作

自己免疫性膵炎は、IgG4 が関与する 1 型と好中球病変を主体とする 2 型に分類される。2 型は欧米に多く見られるがアジアではまれである。光山氏は、自己免疫性膵炎 1 型 10 例と 2 型 12 例の切除標本を用いて免疫組織学的相違を検討した。2 型は 1 型と比較して、小葉間膵管周囲の好中球数や小葉間膵管上皮の GCP-2 スコアが有意に高値であったが、小葉間膵管上皮の IL-8 スコアは有意差を認めなかった。また、日本とイタリアにおける 2 型の組織学的比較でも差は認めなかったことから、自己免疫性膵炎における膵管周囲の好中球浸潤は、膵管上皮から分泌され GCP-2 の相違によるものであることを見いだした。本研究は、自己免疫性膵炎の鑑別に新たな知見与えるものであり、学位に値すると判断した。